都城市文化財調査報告書第26集

KAMIDAIGOROU Site.

上大五郎遺跡

MAEHATA Site.

前畑遺跡

丸谷地区県営ほ場整備事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査概要報告書

1994.3

都城市教育委員会

上大五郎遺跡館跡完掘時全景

前畑遺跡完掘時全景

序

この報告書は平成５年度、丸谷地区県営ほ場整備事業実施に伴い、北諸県農林振興局の委託を受け、都城市教育委員会が実施した都城市丸谷町の大五郎地区に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査の記録であります。

平成５年11月から平成６年３月までの現場における発掘調査の結果、縄文晩期、弥生から古墳時代にかけての遺構・遺物、中世の居館跡などが発見されました。

これら発掘した資料を郷土の歴史的遺産として適切に保管を図り、本書の刊行が市史解明の貴重な一助となり、歴史教材として生かされるとともに、今後の学術研究に少しでも寄与できることを願っています。

本事業の推進と本書の刊行にあたり、発掘調査に参加された皆様、宮崎県北諸県農林振興局、丸谷地区土地改良区等関係各位の御指導、御協力に対し、深甚の謝意を表しますとともに、直接発掘調査、報告書刊行に御尽力をいただきました県文化課に厚く御礼を申し上げます。

平成６年３月

都城市教育長
隈　元　幸　美

例　　言

1．本書は、丸谷地区県営ほ場整備事業に伴い都城市教育委員会が実施した埋蔵文化財の概要報告書である。

2．発掘調査は平成５年11月23日から平成６年３月２日まで実施した。

3．発掘調査は宮崎県文化課主事東憲章、同長友郁子が担当し、図面の作成については東、長友のほか県文化課職員や補助員の援助を得、一部を業者に委託した。遺構・遺物は東、長友、石川悦雄が撮影した。

4．調査にあたっては、宮崎県北諸県農林振興局、大五郎土地改良区等の多大な協力があった。

5．本書はⅠを都城市教育委員会が、その他、東、長友が執筆し、編集は東が行った。

6．平成４年度都城市文化財報告書第22集に掲載した上大五郎遺跡は字図を再確認したところ小字が本池のため遺跡名を本池と改称する。また、今年度発掘調査した遺跡は字図から上大五郎遺跡、前畑遺跡とする。

目　　次

Ⅰ　はじめに ……5
　1．調査に至る経緯
　2．調査の組織
Ⅱ　遺跡の位置と環境……6
Ⅲ　上大五郎遺跡の調査……11
Ⅳ　前畑遺跡の調査……12

Ⅰ　はじめに

1．調査に至る経緯

宮崎県都城市丸谷地区では、丸谷川の河川改修と県営ほ場整備事業が平成２年度より同時並行に進められている。それらに伴い数次に亘って発掘調査が行われている。ほ場整備事業に伴うものについては、平成３・４年度に三遺跡の発掘調査を実施している。

平成５年度も大五郎地区において約28haの県営ほ場整備事業が予定された。前年度発掘調査を実施した丸谷川右岸の本池遺跡（旧上大五郎遺跡）の西側隣接地を平成５年８月に宮崎県文化課により試掘調査をした。結果、古代から中世の土師器が出土し、同時期の集落跡が存在する可能性をうかがわせた。また、ほ場整備施工地区東端の丸谷川左岸に南へ舌状にせり出す台地縁部も地形から遺跡と推察された。

これらを踏まえ、宮崎県文化課と宮崎県北諸県農林振興局との間で工事施工区域内の埋蔵文化財の取扱いについて協議がなされ、現状保存が困難な丸谷川右岸地区（上大五郎遺跡）と丸谷川左岸地区（前畑遺跡）を記録保存することとした。

調査は都城市教育委員会が主体となり、平成５年11月23日から着手し平成６年３月初旬に現場での発掘作業を終了した。なお、調査は宮崎県教育庁文化課主事東憲章が中心となり担当した。出土品や図面の整理等は都城市埋蔵文化財整理収蔵室や宮崎県埋蔵文化財センターで引き続き行っていく予定である。

2．調査の組織

調査主体　都城市教育委員会

教育長	隈元幸美
教育次長	村中日出男
文化課長	松山　充
課長補佐	遠矢昭夫
文化財係長	海田　茂
〃　主事	矢部喜多夫
庶務担当主事	横山寿代
臨時職員	竹下愛子

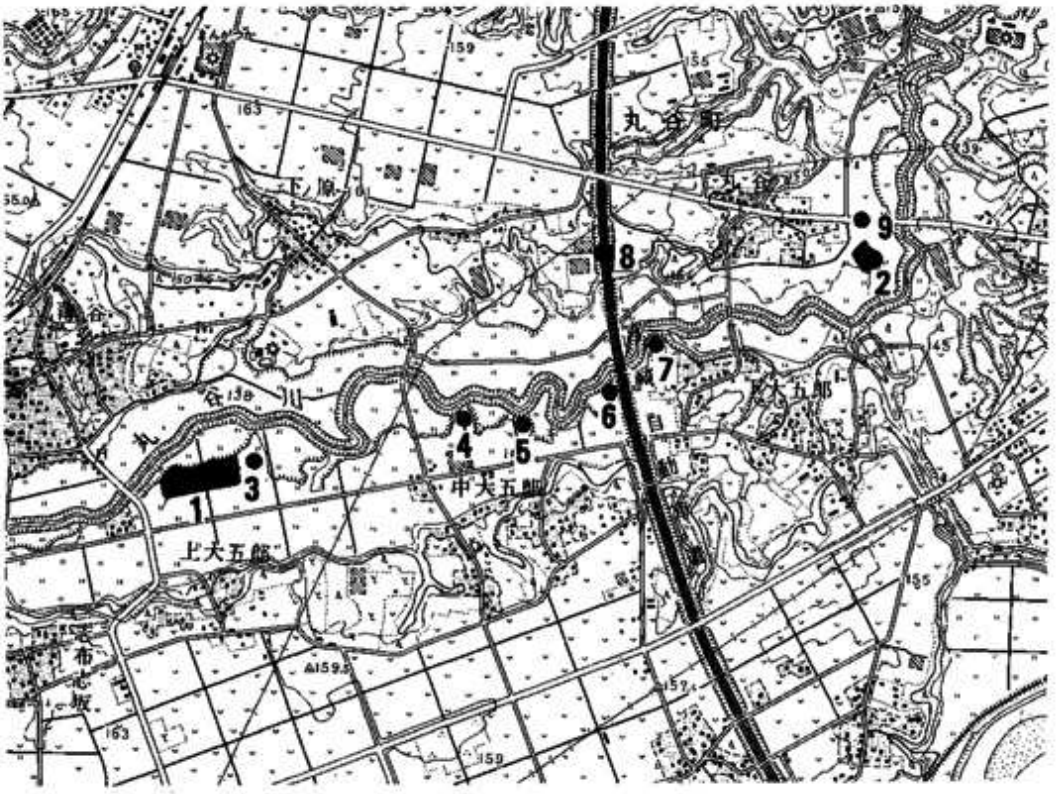
調査指導（試掘）	宮崎県教育庁文化課	主査	石川悦雄
調査員	〃	主事	東　憲章
	〃	主事	長友郁子

Ⅱ　遺跡の位置と環境

上大五郎遺跡・前畑遺跡は、宮崎県の南西、鹿児島県と境を接する都城市に所在する。遺跡は市の北東部に位置し、大淀川水系の丸谷川の形成する河岸段丘の最下段に営まれている。

上大五郎遺跡は丸谷川の右岸に位置し、平成４年度に発掘調査を行った本池遺跡（旧上大五郎遺跡）の西隣になる。北は丸谷川に面し、遠く高千穂峰を望む。南は上の段丘まで約は約300ｍ離れているためきわめて眺めが良き広々とした場所である。標高は約140ｍを測る。現在は平坦な水田となっているが、旧地形にはわずかな起伏が認められた。

前畑遺跡は丸谷川の左岸に位置し、上大五郎遺跡から約２km下流になる。遺跡は、丸谷川の氾濫や後世の削平により小高い島状になっている。周囲の水田面との比高差は約２～５ｍを測る。南に丸谷川を見下ろす河岸段丘の最下段に位置するが、川の両岸ともに間近に上の段丘が迫っているため、空間的には狭い印象を与える場所である。以前より館跡の伝承があり、削平を免れたものと考えられる。調査前は栗林がほとんどの面積を占めており、木の合間に植木や里芋などが植えられていたものの耕作土は非常に薄かった。耕作土下は軟質の黒色土で、その下に御池ボラが厚く堆積している。



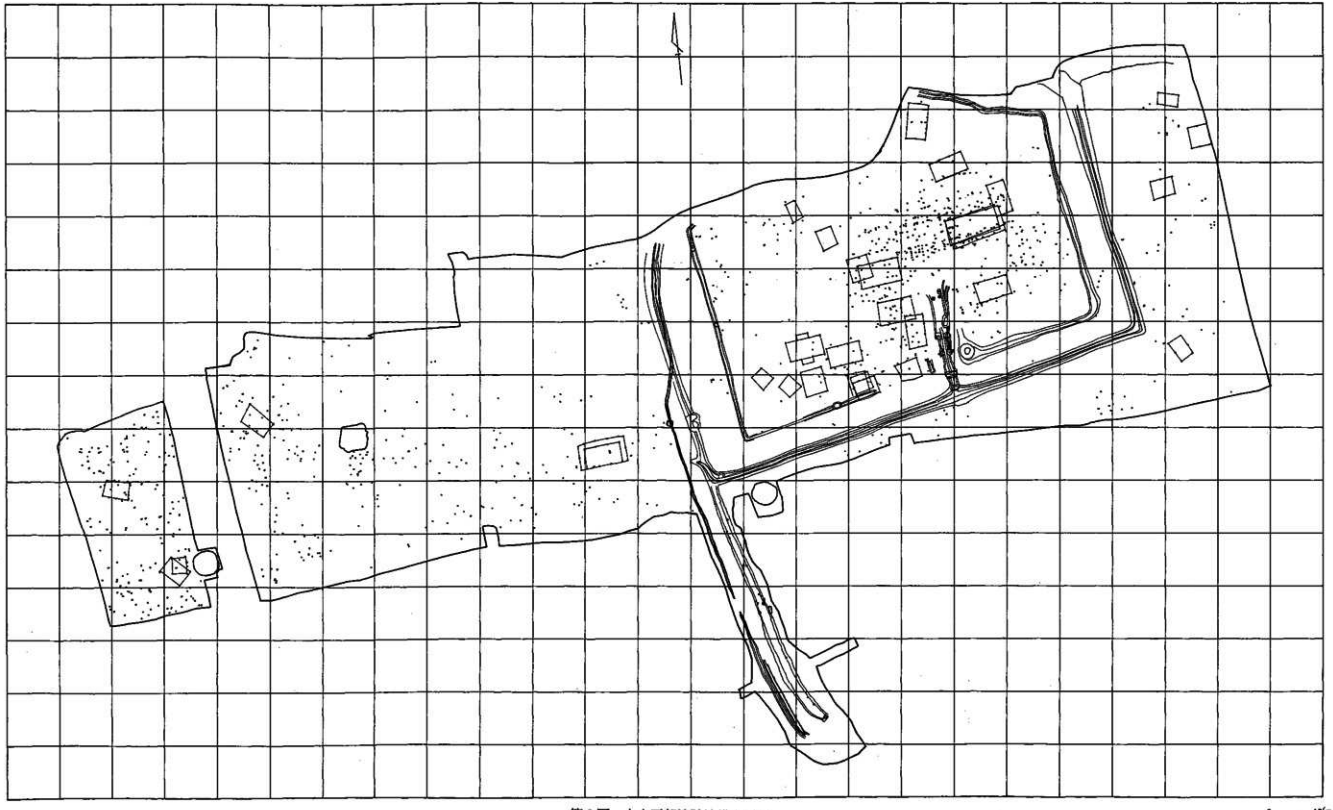
第１図　遺跡位置図

1．上大五郎遺跡　2．前畑遺跡　3．本池遺跡（旧上大五郎遺跡）　4．中大五郎第２遺跡
5．中大五郎第１遺跡　6．下川原遺跡　7．下大五郎遺跡　8．丸谷第１遺跡
9．山ノ田第１遺跡

丸谷地区の歴史的環境は、近年の発掘調査の成果により明らかになりつつある。九州縦貫自動車道建設に伴って実施された丸谷第１遺跡の調査を初めとして、平成２年度からは丸谷川の改良工事と同時にほ場整備事業も始まり、それらに伴う一連の発掘調査が行われた。このうち弥生時代後期の竪穴住居は、下大五郎遺跡で12軒、中大五郎第１遺跡で７軒、中大五郎第２遺跡で６軒検出されている。いずれの遺跡もいわゆる花弁状住居が主体を占めており、この地域の特色のひとつと考えられる。古墳時代の遺構は、今回の前畑遺跡の調査で竪穴住居が検出されたのが初めてである。平安時代から中世にかけての遺構は、本池遺跡で掘立柱建物群、溝状遺構、土坑等が検出されている。

中世から近世にかけての都城盆地は北郷氏の本拠地として栄えたが、特に中世においては北郷氏（都城島津家）と伊東氏、相良氏、椛山氏が当地方の覇権をかけて熾烈な争いを繰り広げたことで知られる。丸谷地区遺跡群付近の野々美谷城、志和池城もその舞台となっている。

丸谷地区遺跡群遠景

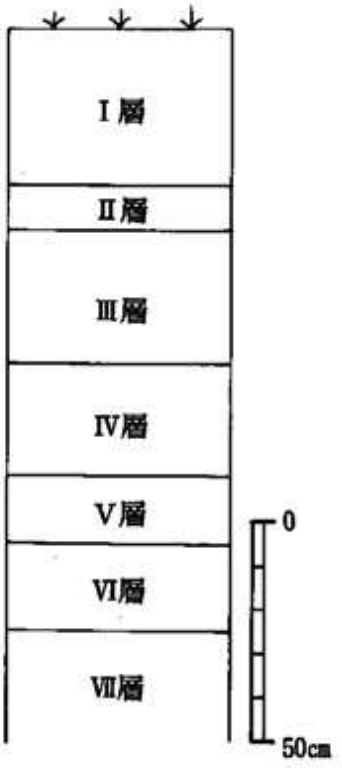


第２図　上大五郎遺跡遺構配置図

Ⅲ　上大五郎遺跡の調査

上大五郎遺跡は宮崎県都城市丸谷町字上大五郎に所在する。平成４年度に調査された本池遺跡の隣接地にあり、県文化課の試掘調査の結果からも中・近世の遺構・遺物の存在が予想されたため、本年度事業範囲のうち地下遺構の保存が困難な部分について発掘調査を行った。調査面積は約18,000㎡で、ＸＹ座標に合わせた10ｍグリッドを設定した。基本層序は第３図の通りで、都城盆地の一般的な層序と基本的には同じである。霧島御池火山灰は通称「御池ボラ」と呼ばれ、約4,000年前に現在の御池が噴火した際に噴出した降下軽石である。重機によりⅣ層までを除去した後、人力により精査しⅥ層上面で遺構検出を行った。

調査の結果、中世の居館跡が一区画（二重の溝、門状遺構、掘立柱建物群、土坑）ほぼ全容を現す形で検出された。これまでにも都城市域で中世の居館跡の一部が発掘された例はあるものの、全容が明らかになったのは初めてであり注目される。その他、弥生時代後期の竪穴住居３軒、中世から近世にかけてと思われる掘立柱建物群、土壙墓１基、溝状遺構２条、ピット群等が検出された。遺物量は少ないが、弥生土器片、土師質土器片、陶磁器片、銭貨等がある。



第３図　基本柱状図

Ⅰ層：耕作土
Ⅱ層：水田基盤層、鉄分を多く含む
Ⅲ層：漆黒色土層
Ⅳ層：漆黒色土に霧島御池火山灰を少量含む層
Ⅴ層：漆黒色土に霧島御池火山灰を大量含む層
Ⅵ層：霧島御池火山灰に黒褐色土を含む層
Ⅶ層：霧島御池火山灰層

Ⅳ　前畑遺跡の調査

前畑遺跡は宮崎県都城市丸谷町字前畑に所在する。現地は島状の高まりとなっていたが、本年度事業により周囲の水田と同レベルまで削平されることとなったため全域について発掘調査を行った。調査面積は約4,000㎡で、ＸＹ座標に合わせた10ｍグリッドを設定した。基本層序は上大五郎遺跡とほぼ同じである。調査の結果、縄文時代晩期の土坑１基、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居26軒、土坑１基、中世の道路状遺構２条、竪穴状遺構４基、土坑７基、土壙墓１基、近世の土壙墓２基、中世から近世にかけての溝状遺構２条、ピット群等が検出された。遺物については、弥生土器片、土師器片、陶磁器片、軽石製石製品、銭貨等が見られた。

弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居26軒のうち、10軒はいわゆる花弁状住居で、密集し切り合う形で検出された。これまでに調査された丸谷地区遺跡群では、切り合う住居跡はほとんど見られず、今回の検出状況は注目される。

中世の道路状遺構はスロープ状になっており、途中に門状遺構が見られる。三方向に出入り口状の施設があり、ほぼ直角に曲がる。周囲にはピット群が見られ掘立柱建物が存在したと考えられる。なお、道路状遺構の埋土には通称「文明の白ボラ」と呼ばれる桜島を噴出源とする降下軽石が見られた。これは1476年（文明８年）と実年代が判明しており、遺構の時期決定に有用な資料となり得る。

前畑遺跡検出時全景

上大五郎遺跡調査区全景（検出時）

上大五郎遺跡1号住居址

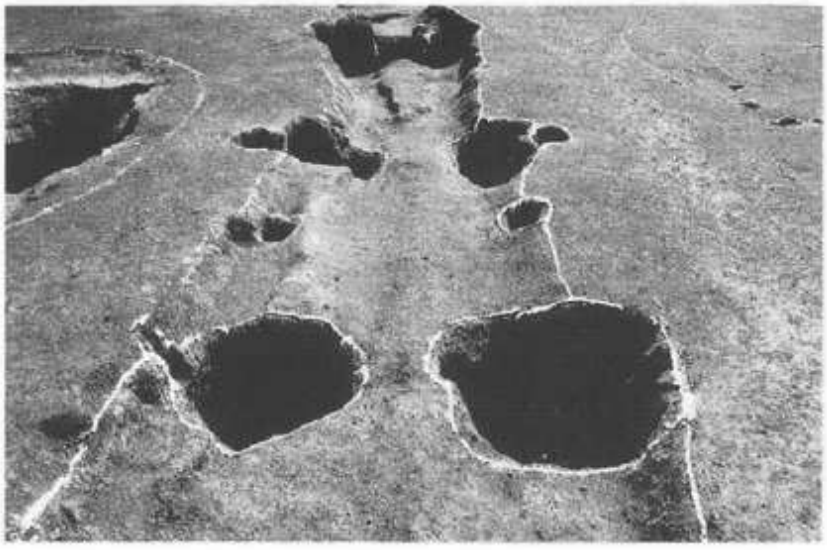
上大五郎遺跡 2 号住居址

上大五郎遺跡 3 号住居址

館址入口部

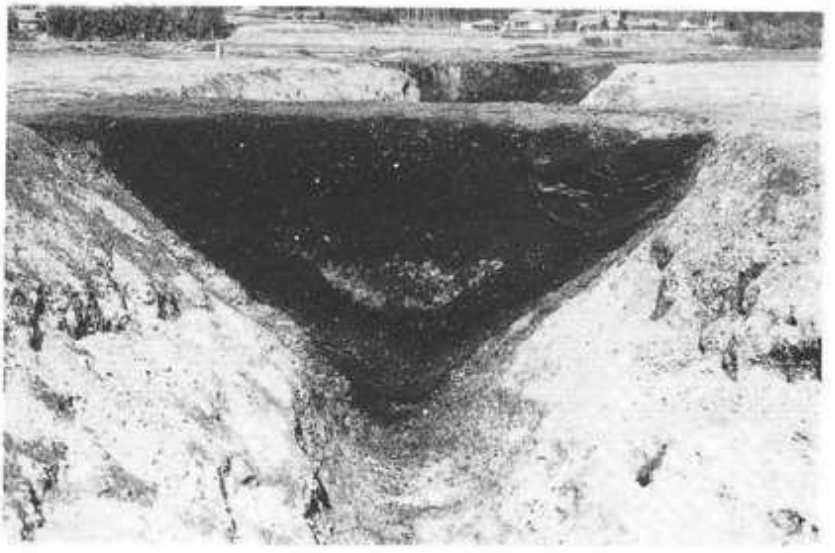
門跡柱穴群

門跡柱穴群

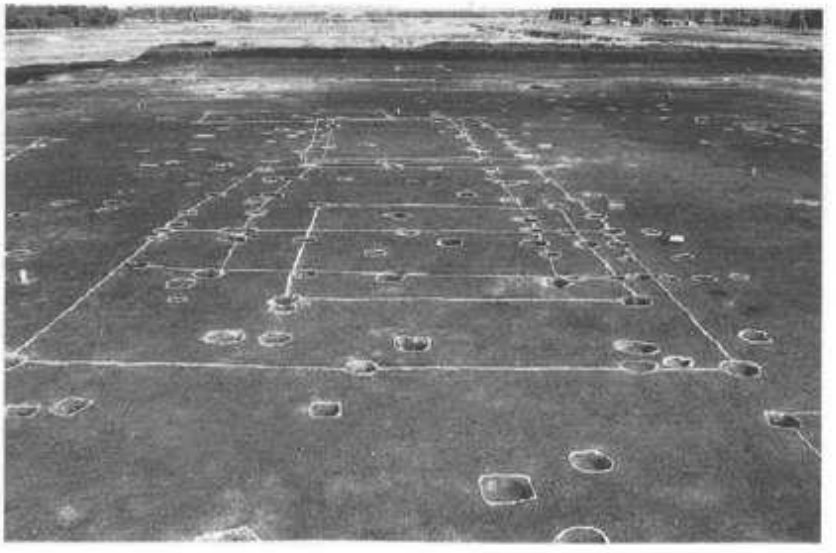


館址外溝左隅部

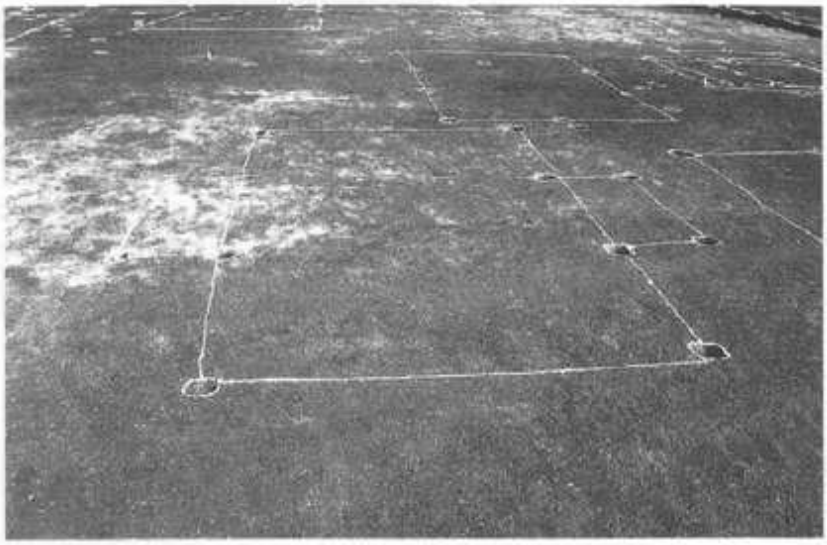
館址外溝右隅部



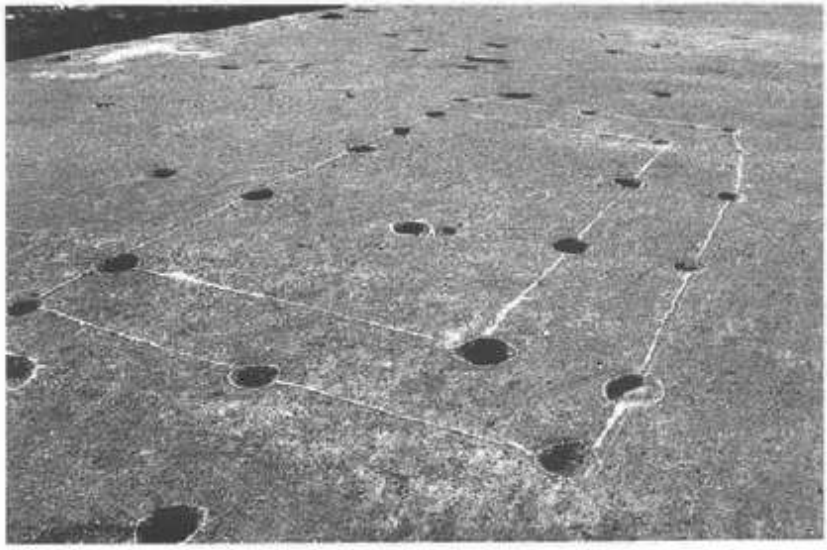
外溝土層



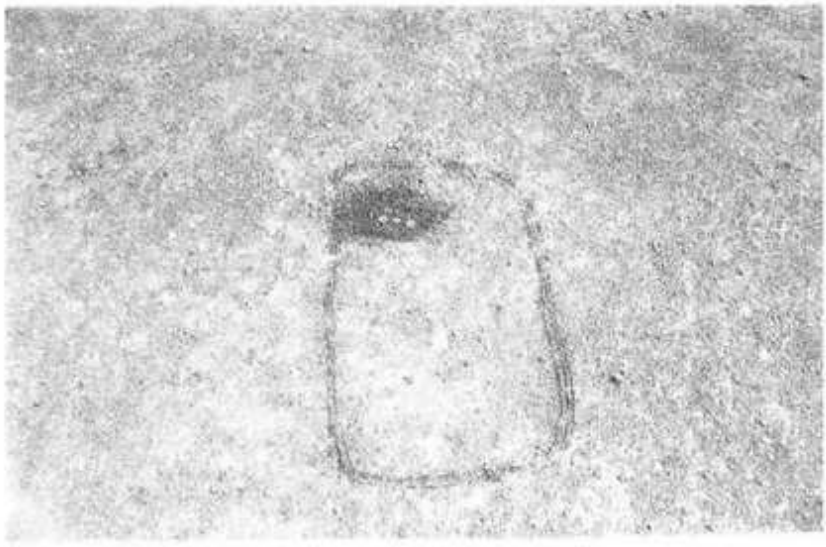
掘立柱建物



掘立柱建物



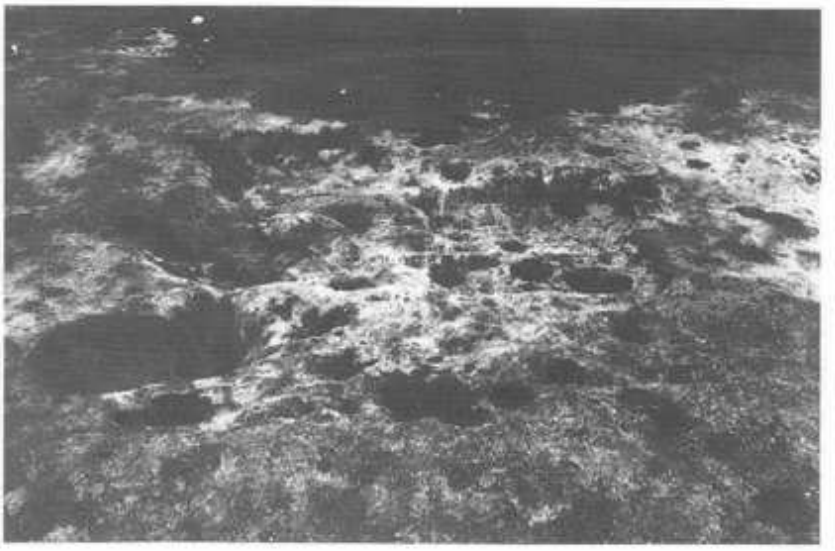
掘立柱建物



土壙墓

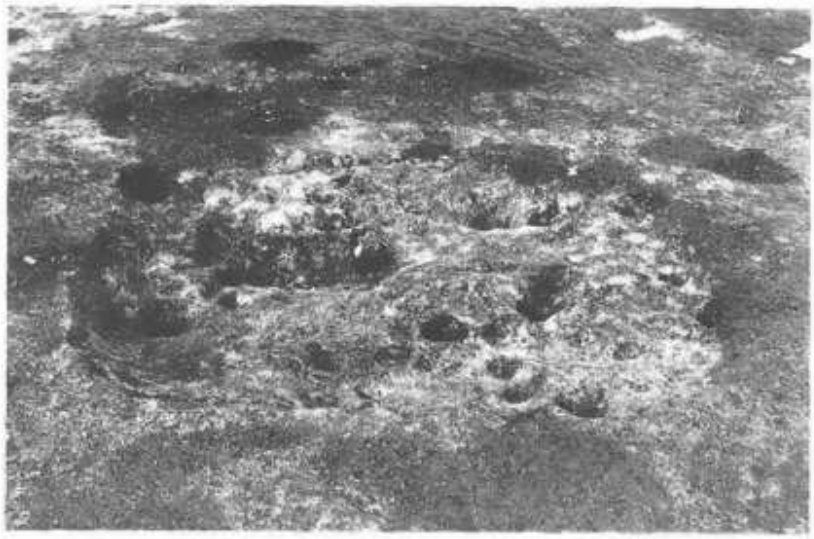
前畑遺跡4号住居址

前畑遺跡13号住居址



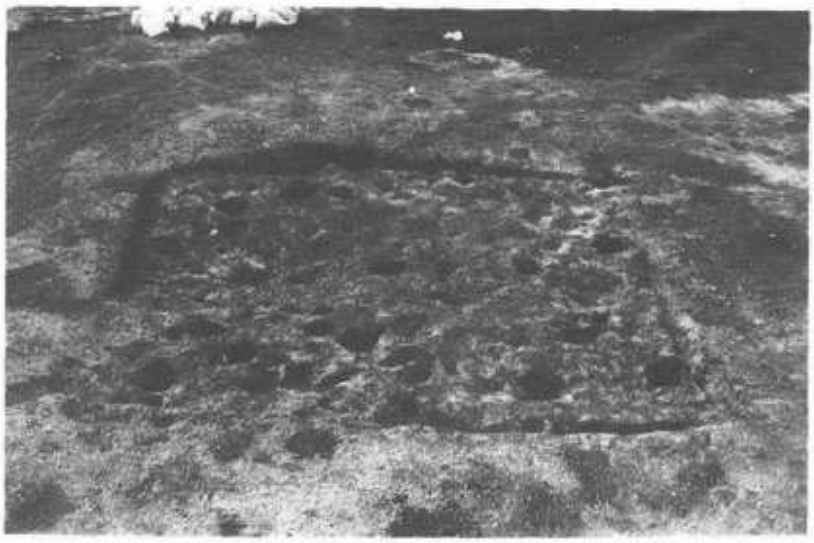
前畑遺跡16号住居址

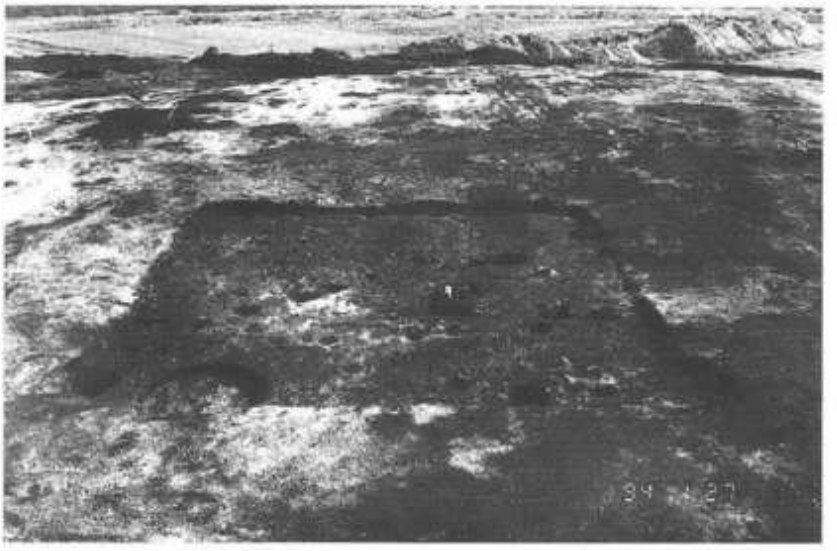
前畑遺跡18号住居址



前畑遺跡19号住居址

前畑遺跡20号住居址





前畑遺跡22号住居址

前畑遺跡29号住居址

前畑遺跡5、6、7号土坑

都城市文化財調査報告書第26集

上大五郎遺跡
前畑遺跡

平成6年3月
発行
都城市教育委員会
都城市姫城町6街区21号
印刷
有限会社 文昌堂